

注: 頁行は、補正箇所の冒頭を示し、補正前後の内容は、付加削除等の補正方法も示す。			
頁	行	補正前	補正後
101	17	0.P. 8. 7m~9. 1m	0.P.+8. 7m~9. 2m
107	13	津波の再来周期が約800年から1000年と推定された	津波の再来周期が約800年から1100年と推定された
129	17	故郷喪失・安否慰謝料	故郷喪失・安否慰謝料
133	21	昭和23年に	昭和23年福井地震を考慮して
134	17	早期かつ確実に	早期かつ確実に評価を完了できるよう、
141	1	施設の供用機関に	施設の供用期間中に
152	19	原子力事業の健全な発展	原子力事業の健全な発展
153	3	原子力事業の健全な発展	原子力事業の健全な発展
153	19	原子力事業の健全な発展	原子力事業の健全な発展
159	23	最大水位上昇値	最大水位上昇量
159	24	眺望平均干潮位	眺望平均干潮位
163	13	不確実性	不確実性
166	10	二陸沖のみ	二陸沖にのみ
168	19	甲4.1.7	甲4.1.7
168	20	規模の信頼度A	規模の評価の信頼度A
169	16	統計的に	系統的に
169	16	一定地点で将来の一定期間に一定の津波高を超過する確率	特定地点で将来の特定期間に特定の津波高を超過する確率
170	19	確率的ハザード評価	確率的津波ハザード評価
179	12	無限時間	長時間
181	16	潜在的な最大マグニチュードは1.8.8頁2.5行目ないし1.8.9頁5行目の全文を改める。	この「資料2 福島第一発電所日本海溝寄りの想定津波の検討Rev.1」(甲A3.4.0)によれば、最大津波高さは、敷地南側(0.P.+1.0m)で0.P.+1.5.、7.0.7m(浸水深5.、7.0.7m)、敷地北側(0.P.+1.3m)で0.P.+1.3.、6.9.5m(一部浸水)、1号機から4号機の取水ポンプ位置(0.P.+4m)で0.P.+8.、3.1.0~9.、2.4.4m(浸水深4.、3.1.0~5.、2.4.4m)、4号機の原子炉建屋(R/B)中央付近で0.P.+1.2.、6.0.4m(浸水深2.、6.0.4m)、4号機のタービン建屋(T/B)中央付近で0.P.+1.2.、0.2.6m(浸水深2.、0.2.6m)などとされており(7.、9.、1.5.頁)、同試算において、想定津波は、1号機から4号機の敷地の南側のみから遡上し、1号機から4号機の敷地の東側からは遡上しないとされていた。
188	25		0.P.+7.、2m
196	16	0.P.+7.、2	0.P.+7.、2m
199	11	甲A4.3.1頁	甲A2本文欄・7.9頁~8.0頁、甲A4.3.1頁
201	19	給気ルーバ	給気ルーバ
205	23	給気ルーバ	給気ルーバ
206	1	甲A1.4.3頁	甲A1.1.4.8頁、甲A2.1.7.7頁
222	13	大量の	大量に
222	14	苛酷事故	過酷事故
222	20	苛酷事故	過酷事故
232	24	減速	原則
265	17	当該紛争当事者	当該紛争の当事者
275	17	平成23年5月	平成23年8月5日
277	9	住宅係数	建物系数
278	7	選択する	選択できる
281	7	次のA又はBの算定方法	次の算定方法
282	4.3	万8000円/m ²	4万1000円/m ²

17_表017

注: 頁行は、補正箇所の冒頭を示し、補正前後の内容は、付加削除等の補正方法も示す。			
頁	行	補正前	補正後
285	22	文末に付加	更に令和元年7月31日時点までの賠償金の既払金は、別紙4原告基本情報等の第2表のとおりとなっている。
286	2	同項に基づく損害賠償請求権の法的性質は不法行為に基づくものと異なる	同項に基づく損害賠償請求権は、賠償の範囲及び金額について不法行為に基づくものと等価であると考えられる
288	24	交換価値	交換価格
289	5	居住用建物につき固定資産評価額に一定の補正係数を乗じて計算する定額評価	居住用建物につき固定資産評価額に一定の補正係数を乗じて計算した金額と本件事故発生時点の平均新築単価(経年による価値の減少を考慮したもの)に床面積を乗じて計算した金額のいずれか高い方とする定額評価
291	21	差額	差額(移住を余儀なくされた区域以外の地域に居住していたが、移住をすることが合理的である場合は、その7.5%)
291	22	新築想定価格	想定新築価格
291	24	(移住を余儀なくされた区域以外の地域に居住していたが、移住をすることが合理的である者については、当該額の7.5%)	削除
297	11	交換価値	交換価格
297	16	交換価値	交換価格
298	6	交換価値	交換価格
370	19	甲5.1-3	甲C5.1-3
別冊2・別紙7(注: 頁数は「枝番を除く原告番号一頁」で示し、行数は枠外の見出しを除く。)			
1-4	18		
6-2	23	フレコンバッグ	フレコンバッグ
10-5	23	解会社	会社
14-4	23	腰部脊椎管狭窄症	腰部脊柱管狭窄症
18-5	8	1週間物	1週間の
29-1	3	町	町
33-4	1	生活して	生活していた
45-1	5		
62-5	8	保障	補償
66-4	12	帰宅	帰還
66-5	7	帰宅	帰還
73-1	4	平成13年生	平成12年生
74-2	6	雪が積もるような	雪が積もることが
79-4	3	学校	小学校